

たみの汁とは、色々のうちな等也。○中

一物をくひて箸をば折敷に置いて酒をもものむべし、汁碗の上に箸を置事努々有べからず、右に折敷に置べし。○中

一人前にてさい喰事、さいをば山海野里と如斯次第をして喰也、但時の賞翫を次第して先喰べし。○中

一飯をくふやう、先左を一箸、右を一箸、向を一箸、三箸を一口に入れて喰也、是は門出に喰也、我が所にて向左右と喰也、

一肴のすひ物をば、汁を吸てさてみをばはさみて喰也、

〔食物服用之卷〕一食まいり候、左はせのこと、左の手にてはしをとりあげ、右の手にもち、れ右にみやうあり、女房若衆はさて食椀をとりあげ、食をくちまいり、れ右をとりあげ、みばかりをまづまいりをくなく、又食をまいり汁をとりあげ、れ右をすい、みをまいるべし、さいをまいるに、何にてもなかをきを參るべし、されどもせんくみにより、まいるやうあるべし、あえまぜなますかみしもにあらば、いづれなりともまいりはじむるなり、まるたあはびのからもりなど一ばんにまいる事いかゞ、

一二の汁のまいりやう、はしをとりなをし、汁を右にてとりあげ、いとじきを左の手のうちにすゆるやうにしてまいるべし、かわらけなどの時は、兩の手にてとるなり、又本膳のさいと、二三のさいとをかけまいる事いかゞ、本膳は本膳、二の膳は二の膳、三の膳は三のせん、そればかり汁さいをまいるべし、又さい一つ皆まいり候事いかゞ、すこしづ、いづれのさいにも手をかけらるべし、但ことによるべきか、又三の汁は左の手にてとりあげ、汁をすひみをくふなり、これを二三のくひわけといふ、